

インドネシア公共事業省との技術交流開始に向けた調査

1. 目的

インドネシアにおいては、これまで政府開発援助（ODA）により土地改良分野の協力を行ってきたが、同国の経済発展に伴い、平成 21 年度以降は新たな協力は実施していない。

そのような折、平成 27 年 11 月、二階全国土地改良団体連合会長（自民党総務会長）がインドネシアを訪問された際、先方ジョコ大統領に対し、要請があればかんがい施設整備への支援を前向きに検討する旨ご発言があったところ。

当省としても、同国における土地改良分野の現状やニーズを改めて把握し、ODA の活用も含めた我が国の土地改良技術の海外展開を図るなどの観点から、インドネシア公共事業省との技術交流を行なうことは有意義と考えている。

このため、来年度以降、農林水産省農村振興局及びインドネシア公共事業省水資源総局との間で、新たにかんがい排水技術に関する技術交流を開始するため、本年 9 月に事前調査を実施することとしており、かんがい排水技術に関する知見を有する土地改良区の参加を得て調査を実施したいと考えている。

今後、技術交流の成果として、かんがい排水分野での具体的な技術協力の実施の可能性も考えられ、その際には、日本の土地改良区の人材の活用も含め、土地改良区において蓄積された知見・ノウハウを活かした協力内容とすることを想定している。

2. 調査日程等

全体調査行程は以下の通り。

日程	時間	内容	宿泊
9 月 25 日（日）		調査団インドネシア入国 （羽田（10：15）→ジャカルタ（15：55））NH855 便	ジャカルタ
9 月 26 日（月）	午前 午後	大使館表敬（少人数） インドネシア公共事業省幹部表敬 公共事業省との意見交換（詳細は 4.（2）に記載）	ジャカルタ
9 月 27 日（火）	終日	現地調査（現地調査案は別添参照）	調整中
9 月 28 日（水）	終日	現地調査 調査団帰国（ジャカルタ（21：25）→羽田（7：10））NH856 便	機中
9 月 29 日（木）	早朝	羽田着（7：10）	

3. 交流参加者

(1) 日本側調査団構成

○室本農村振興局次長を団長とし、農水省 5 名、農工研 1 名、全土連・県土連・土地改良区の計約 20 名で構成。

○土地改良区からの参加者については、日本の土地改良区において蓄積されたかんがい排水技術に関する知見・ノウハウを活かした技術交流とするため、実務に明るい土地改良区職員の方にも参加してもらいたいと考えている。

(2) インドネシア側出席者

○インドネシア側からは、治水・利水担当部局のトップである公共事業省水資源総局長やかんがい局長及び関係技術者の出席が予定されている。

4. 調査内容

(1) 概要

○来年度から開始する技術交流実施の提案及び意見交換

○両国のかんがい排水分野の現状、課題及び取組の説明、意見交換

○かんがい排水分野に係る現地調査

26 日午後の意見交換にて、まずは農水省側より次年度から開始する技術交流の実施について提案し、意見交換を行なう。

両国の官民かんがい排水技術者が集う機会であり、両国のかんがい排水分野の現状及び課題、近年の具体的取組についての発表及び意見交換を行なう。

27・28 日には、インドネシアのかんがい排水地区の現状や営農状況を把握するため、現地調査を行う。

(2) 公共事業省との意見交換詳細（案）

○日 時：9 月 26 日（火）14：30～17：25

○場 所：公共事業省内会議室

○その他：日本側からの取組の紹介は、農水省、農工研、土地改良区を想定
言語は、日本語及びインドネシア語（日－尼逐次通訳対応）

日時	内容
14:30 ~ 17:25	1. 開会 (20分) ○インドネシア側挨拶 (●●) (10分) ○日本側挨拶 (室本次長) (10分) 2. 両国のかんがい排水分野の現状の報告 (30分×2者=60分) ○インドネシア側より現状の報告 (●●) ○日本側より現状の報告 (宮崎室長) 3. 技術交流の提案 (30分) ○日本側より技術交流の提案 (吉田補佐) ○双方意見交換 ○日本側より議事録署名の提案及び署名 (休憩) (10分) 4. 両国のかんがい排水分野の取組の紹介 (15分×3者=45分) ○日本側より土地改良区の活動の紹介 (土地改良区) ○日本側よりかんがい排水分野の技術的取組の紹介 (農工研) ○インドネシア側よりかんがい排水分野の取組の紹介 5. 閉会 (10分) ○インドネシア側挨拶 (●●) (5分) ○日本側挨拶 (室本次長) (5分) ▪ (集合写真撮影)

(3) 現地調査

現地調査先については、別添参照

5. 参加費等

○自己負担額 (予定) : ¥150,000 程度

航空券、宿泊費、現地移動費含む

※参加人数により、負担額の増減の可能性有り

※発券以降は日数に応じたキャンセル料が必要

6. 今後の予定等

6月上旬 : 関係改良区への連絡開始

7月28日 (60日前) : 参加者人数の決定

8月 8日 (45日前) : 参加者名の決定

8月23日 (30日前) : 交流概要の送付

パスポートのコピー収集 (発券のため)

発表原稿を海外室に送付 (海外室にて翻訳発注)

9月 5日 (21日前) : 発券

9月19日 (7日前) : 関係資料の送付

インドネシアにおける現地調査先（案）

現在以下３地区から現地調査先を検討中。調査行程の詳細は今後決定の予定。

１．ジャティルフル灌漑地区

オランダ統治時代に建設され、人口増に伴い世界銀行資金にて地域が拡大された、約 240,000ha のインドネシアの首都近郊にして、インドネシア国内で最大の灌漑地区。



ジャティルフルダム湖



堤体下流側

２．ルイゴーン灌漑地区

用水の安定供給を図り、コメ生産を安定化させるため、施設の新規・改修を行い、5,313ha へ用水供給を行なう計画。

平成 22 年度より、円借款により、建設事業（可動堰建設、水路建設・改修）を実施中。



建設中のルイゴーン頭首工

３．ルンタン地区

オランダ統治時代に建設され、約 90,000ha のかんがい面積を有する大規模地区。

施設の老朽化あるいは機能低下が著しく、またそれを適切に運営するための水利組合及び維持管理体制の強化などが必要となっており、円借款による改修等の対応を検討中。



ルンタン頭首工



水路の様子

インドネシアにおける現地調査先（案）

ジャカルタ（首都・セミナー実施場所）



ルンタン地区

（頭首工までジャカルタから高速使用で約3時間）

ボゴアジャティフル地区
（ジャカルタから高速使用で約2時間）

ルイゴーン地区

（ジャカルタから高速使用で約4時間）

